

## 第32回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

### < テーマ型 生涯学習プラザの機能と住民参加 >

|       |                                 |
|-------|---------------------------------|
| と き   | 令和元年7月26日（金） 午前10時～11時30分       |
| と ころ  | 尼崎市大庄北生涯学習プラザ 2階学習室 （大島3丁目9-25） |
| 出 席 者 | 参加者 12人、市長ほか関係者 13人 計25人        |

#### 1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

#### 2 市長からの説明

<資料「自治のまちづくりに向けた地域振興体制と生涯学習プラザについて」に基づき説明>

・尼崎市の地域活動は、社会福祉協議会、いわゆる自治会、町内会を中心に取り組んでいるが、固定メンバーに負担がかかり、後継ぎがないのが悩みである。ライフスタイルの多様化、共働き家庭が一般的になり、みんな忙しい。

一方で、災害時などにはコミュニティのつながりが大事だということも感じている。

今どきのやり方で、いろんな方が参加しやすい地域づくりを進めていくためにも、地域振興体制の強化に取り組んでいく。

・地域活動に参加していない原因として、「きっかけがない」「時間が合わない」「知っている人がいない」などのアンケート結果が出ている。例えば、もっと学校とつながり、子供たちとその保護者の方たちと一緒に何かをしたり、ごみ拾いやこども食堂など、テーマごとに活動しているグループの見える化を図るなどして、横のつながりを作っていければと思う。

<どんな姿をめざしているのかについて>

- ・学びや活動のきっかけがある状況を目指す。（サマセミ、尼崎大学など）
- ・みんなで知恵を出し合って地域課題を解決していける状況を目指す。
- ・いろんな人が横につながり情報共有できるなど、顔の見える関係づくりを目指す。

<具体的な取り組み>

- ・元々の6公民館・6地区会館を、原則同じ機能を持つ施設「生涯学習プラザ」として位置づけた。また、旧の支所については、主に地区会館と集約しながら建て替えを行っている。

（今新しく建て替わっているのが、武庫、中央、大庄。小田が工事中。立花、園田が準備中。）

- ・6地域振興センターに課長を配置し、講座等の企画や本庁所管課との調整機能を強化している。
- ・生涯学習プラザの受付等、館の管理は指定管理者にお任せすることで、職員は地域の活動支援や講座の企画運営などに注力できるようにした。
- ・小学校区ごとに地域担当職員を一人配置し、市民とのつながり、情報収集、整理、共有、企画、発信等を行うこととしている。
- ・市内に、小学校区は41、尼崎市の連協（社会福祉協議会）は75ある。  
小学校区を概ねの単位としながら、テーマに応じていろんな人とつながっていくこととしている。

### 3 市民と市長との対話

(表示方法 ・ 市民の意見 →市長の答え)

・生涯学習プラザの名称が、それぞれの地区の東・西・南・北と書いてあるが、どこを基準に見るのか。地図を見ればわかるが、聞くだけだとわからない。地名を使えばどうか。

→6地区それぞれの中で、北と南、東と西という風に決めている。町名という議論もあったが、そのエリアの人のための建物みたいに感じるという意見もあり、使わなかった。

・以前も、大庄地区会館と大庄公民館、大庄体育館など似た名前でもわかりにくかった。

→名称のわかりにくさはいくつかご意見をいただいている。中央では、南は以前から「サンシビック」と呼ばれており、北は先日の愛称募集で「梅プラザ」に決まった。愛称に旧〇〇と付けてもいいかもしれない。

・大庄の旧公民館は著名な建築家である村野藤吾さんが建てたものなので、愛称を「村野記念館」にしてはどうか。建て替えずに耐震化などを施して保存してほしい。

→記念館にすると貸館では使えなくなるので、ひと工夫したいと考えている。また建て替えせず保存する方針となっている。

・旧大庄公民館を保存するにしても、照明は暗いし、トイレが汚い。

→トイレの問題と耐震化は検討していく。

・大庄北生涯学習プラザは、広くて天井も高いが、長時間いたいと思わないし、落ち着かない。ただ単にテーブルと椅子を置くのではなく、配置を変えるなどしてはどうか。

→ワイワイ交流するという機能と静かに勉強したいという機能の両方のニーズにどう対応するかが悩ましいところである。みんなのお金で建てた公共の建物なので、どう使うかもみんなで考えていけないといけないと思う。ルールやマナーはみんなで築き上げて、育てていくものだと思う。

・梅プラザは良かった。3人か4人ぐらいの小さなテーブルで、勉強する人、話をする人、食事する人がいて、誰でもどこでも集団に入れる雰囲気がある。書架もあって天井の吹き抜けも素晴らしい。

・旧大庄公民館は、大庄の歴史の残した施設としてもう少し何かしてもいいのではないかと。ここは旧国道が通っているいい場所なので、旧大庄公民館を旧国道街道の拠点にすればいいと思う。また、「まちづくり懇話会」が中心になって「大庄マップ（街歩きのマップ）」を作っていたことがあるので、活用してもいいと思う。

→今まで、公民館の実施する講座が固定化していたが、みんなで考えたらいいのではないかとこのところ終わっていた。街歩きのマップをリニューアルしたり、勉強会やみんなで集まるワークショップなどを地域の方々と一緒に企画していければと思う。

・以前の市長の時に、大庄地区に図書館を持ってきてくれたら地域のレベルが上がると思い、大庄にも図書館を作ってほしいと依頼したが、叶わなかった。今の公民館は蔵書・書籍の数が少ないので、もっと増やしてほしい。

・旧大庄公民館でも予約すれば本は借りることができる。ただし、CDは中央図書館に行っても、聞くことはできるが借りることができない。近隣市では貸し出ししているのに、なぜか。

→なぜCDが借りれないのか、経緯を確認する。 ※

・社会福祉協議会をはじめ様々なところがボランティアの募集をしているが、なぜ一体でできないのか。地域活動に参画する人を求めているのであれば、一か所でまとめればいいのではないかと。縦割りをやめて横串を通して一丸となってやるのが大事だと思う。

→いい意見だと思うが、募集期間が短いものもあるので、どうしても縦割りにになってしまう可能性はある。

・マンションは町会に入らないところが多いので、「陸の孤島」と言われることがある。情報を得るためには、公民館等情報が集まる場所に取りにいかないといけない。また、町会の副会長をやって

番切実な問題だと思うのは、情報が直接末端の市民まで伝わらないことである。一所懸命やっているボランティアの方々も自分たちだけでやるから高齢化により会の持続もままならない状況である。さらに、町会の会長のなり手がなくなるところも増えており、少子高齢化も含めたまちづくりの問題について、どこかで手を打たないといけない時代になっていると思う。

- ・社会福祉協議会での話し合いの内容が、街の中に反映されていない。先人のやってきたことは高く評価するが、時代のニーズに合っていない部分は見直さないといけないのではないか。

- 小学校区に職員を配置するときに、例えば朝来市や宝塚市でも「まちづくり協議会」を小学校区単位で再編されたが、なかなかうまくいかなかったと聞いており、難しい点も多い。

- ・大庄では、旧大庄西中学校跡地を「おもしろ広場」と称し、青空図書館をしたり、農園作業でトウモロコシを作るなどいろいろな取り組みをしている。

- ・今回、大庄コープを地域に開放していただくことになり、地域のみinnで使っていくために施設の代表者と打ち合わせをしている。現状、生涯学習プラザだと午前・午後・夜間の部というスタイルで利用時間に規制があるのでなかなか気軽に行けない。そこで、コープでは、自由に、フリータイムで行けるような形にしようと考えているが、地域に根差したところのサポートをお願いしたい。

- コープさんには、店舗を地域で活用できるようにしていただき、有難い申し出をいただいたと感じている。地域が中心になってやっていく中で、市が入るべきときは入り、一緒に進めていければいいと思う。

- ・生涯学習プラザが12施設あるが、市全体で何をしようとしているのかわからない。各施設・各場所・各地域の入れ物ができただけであって、それをまとめるところが、人や予算を分配しないとけないのではないか。

- 旧聖トマス大学があった場所を尼崎市が譲り受けて、現在は子どもの育ちを支える拠点として整備している。すでに学校の先生方の研修場所としての教育総合センターが機能しており、青少年センターも移転建て替えし、10月にリニューアルオープン予定である。子どもの育ち支援センターもここに立ち上げることになっている。この敷地全体を「ひと咲きプラザ」と名付けており、ここに、生涯、学習！推進課を置き、生涯学習プラザ全体統括をしていく。ただ、予算については、地域である程度自由に使える地域予算を配備しており、その調整は協働推進課が担っている。また、全体で統一的なやり方を決めておろしていくのはやめにしようと考えている。地域振興センターを6地区にひとつずつ置くのは、それぞれの地域によって特性が違うからである。

- 大庄は、社会福祉協議会の加入率が約8割だが、武庫地区は約3割となっており、地域によって在り方が違う。地域への関わり方については、すべての地域一律でやるのではなく、地域の特性に応じたいろんなやり方ができるようにしようと考えている。

- ・他市から引っ越してきた人がいじめなどで困ったときに相談等ができる駆け込み寺となるのはどこか。

- 子育て相談はひと咲きプラザでできるし、市役所の中にも子育て相談の窓口がある。また、青少年センターでは「ユースワーク」と言っているが、若い人にいろんな取り組みをやってもらえるような環境作りや、悩みが出たときに寄り添えるサポート機能を持たせることを検討している。不登校児の学びの場もひと咲きプラザを中心にやっていくが、市内に一つだと遠い子はなかなか行けないので、サテライト機能を6つの地域振興センターと生涯学習プラザに持たせていこうと考えている。

- ・大庄からひと咲きプラザに行く場合、どのようにして行くのか、バスなら1時間ぐらいかかる。

- 確かに大庄からのアクセスは悪い。バスの便については見直しが必要かもしれない。

- ・南ノロ公園に市民プールがあることで視界を遮り人が寄り付かない。聞いた話だが、池袋南公園は

新しい試みとして、何も置かず芝生だけにしており、これが成功したという。古い市民プールを何とかしてほしい。

→今年度解体する予定。その後の公園をどのように使うかは、ワークショップを開催し、地域の方々の意見を聞く機会を設けるので、その時には是非参加しご意見をいただきたい。

7,800㎡という非常に大きな敷地であるため、地域の議論の中で決めていきたいと考えている。

・一戸建ては所有権を持っているのが親族だけなので建物の解体は容易である。しかし、分譲マンションは区分所有者の集まりなので、簡単に処分ができないことを考えてほしい。

→問題意識を持っており、廃墟になっても困るので、住宅マスタープランのほうで考えていきたいと思っている。

・最近、情報が多すぎる。町会の回覧板は、チラシが多すぎてしっかり見ない人が多くなっている。何を見たらいいのかわからないし紙代ももったいないと感じる。

→回覧板だと全部に伝わらない時代になっているので、コミュニティ掲示板に極力絞って、大事なお知らせを貼り出す取組を地域に協力いただいて徹底してやっていこうとしている。

・情報に関しては、例えば防災メールが1日に20通も30通も来ることがあるが、正直迷惑であり、妨害とも感じる。だから全てカットして必要だと思ったら自分でインターネットで情報を取りに行くようにしている。時間が十分にあればメールを全てチェックできるが、時間がないと無理である。回覧板も生活の中に割り込んできて、この情報を見なさいよと強制されているように感じる。結局何が大事かわからない。

→この4月から、回覧板は地域の選択に任せている。掲示板についても、地域によっては自分たちの必要なものだけ貼るところもある。地域で作ったルールでいいと思う。

・ボランティアで尼崎城をシンガポールの人に案内したときに、英語で説明していたが中国語で返された。何か手助けになるものがあればとパンフレットを見ても英文が載ってない。英語版があればいいと思う。

→英語版はあるが、一時期在庫切れだったそうなので、直ちに対応するよう伝える。

・大庄地区でも子供会がなくなってきている。指導する人もいないし、子供の活動する場所がない。昔は児童館があり婦人会館もあったが、子育てを進めるのであれば、グラウンドを確保するなど、子供の活動できる場所を確保してほしい。

→「つどいの広場」といって、保育所にも幼稚園にも行っていない子供たちとお母さんが集まれる場所がある。児童館の代わりに、各小学校にこどもクラブがある。

本日は、今後につながる具体的なご提案もたくさんいただき、いろんな話が聞けて有意義でした。ほんとに、ありがとうございました。

以上

#### ※CD貸し出しについて

市としては、限られた予算の中で、蔵書を増やすため書籍の購入に注力しているところですが、CDは貸出できるほどの枚数を揃えることができておりません。そうした実情から、CDにつきましては、館内鑑賞用として設置しているところです。誠に申し訳ありませんが、引き続き、館内でお楽しみいただければ幸いです。